

各地の話題 名取市

イチゴのブランド化に挑戦 震災支援きっかけに農場開園

2025年7月18日号掲載



名取市下増田台林地区にある株式会社
てるひき
照足屋の代表取締役である浅井照久さんは、令和3年から販売所併設のイチゴ農園を営んでいる。

同地区は、仙台空港に近い市東部の海岸沿いで、東日本大震災で津波被害を受けた。浅井さんは東京都出身で、勤めていた青果店の野菜を被災地支援で運んだことが契機で起業を思い立った。

イチゴの栽培技術は山元町のイチゴ農家で学び、農業経験は浅いものの、前職の経験を活かした製品づくりを大事にしている。

栽培は温室ハウスで、土耕に近い環境の高設棚を設置。品種は、甘みを強く感じる白系の「天使のいちご」のほか、赤色品種を多数栽培。音響栽培も行っており、流す音楽は、クラシックからポップスまで多岐にわたる。

「将来、名取イチゴとしてブランド化したい」と語る浅井さんは、令和6年6月から農地利用最適化推進に就任し、市の農地問題に取り組んでいる。委員の業務について「イチゴ栽培とは異なる学びが多いので、良い経験になっている」と話す。

「天使のいちご」を手に浅井さん



イチゴを栽培中の温室ハウス内



【記事提供】 名取市農業委員会